

令和三年

川柳作品集

福井いきいき会

川柳同好会

この作品集は

令和三年の川柳同好会

実施報告書から編集しました。

令和四年一月

福井いきいき会

川柳同好会世話人

小坂 武士

大雪だ 今日の川柳 どうすべー
バレンタイン 昔はもらった 山のチョコ
雪のかけ 畦道に笑う 露の臺
利口もの 当たらず触らず 押し黙る
今の世に ついて行かない かたくなに
ワクチンは 打たずにおこう 怖いから
不整脈 昔は胸キュン 今ハァーハー
けふもまた 暑いあついと ふてテレビ
星占い 良いことあるか 魚座の我
寿樂山(じゅらくせん)庭眺(み)て

ママ見て 料理味(み)て

羨まし 夫婦で行ける 老いの旅

気の強い 真子さんひとり 奮戦す

上坂 征夫

晴れ着買い 成人式が 中止とは
牡丹の芽 寒さ忍んで 春を待つ
病む妻の 「お願いします」に 胸痛む
掛け軸を 引きずり出して 価値値踏み
癩癩(かんしゃく)の

ク抜きで渡ろう 世の中を

あのイナゴ 今料亭の 皿に盛る

土石流 画像の人の 無事祈る

笑み隠し 健闘讃える 思いやり

親感染 子供の防染 四苦八苦

物忘れ 認知と違うと 慰める

埒(らち) (拉致(らち)) 明かぬ

被害家族の 声悲壮

大相撲 観客だけが マスクかけ

大野 勉

米寿きて

生かされた日々

感謝す

笠原 京子

ウソの数 超えて呆れる 除夜の鐘

テレワーク ワイシャツ・ネクタイ 欠伸する

尾ひれつく 噂話は 盛り上がる

四百年 偲ぶ本丸 礎石に苔

タイプ見て 密かに思う 八十路でも

妻嘆く 喰う寝る男(だん)は ボケ予備軍

酒飲めず アフターファイブの 迷い道

柔道の 赤白旗も ビデオ任せ

見返りを 期待するから 腹が立つ

あほバカと あなたが言ったら 許せます

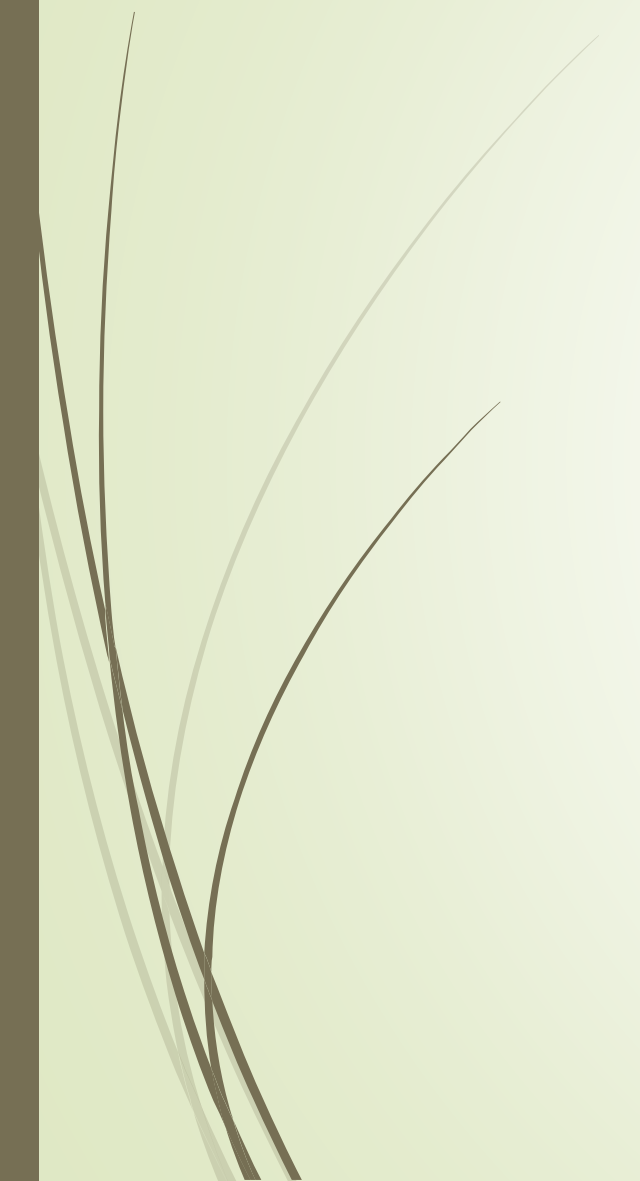

暑かった 秋は束の間 今朝ストーブ

早く来い 昔正月 今年金

小坂 武士

いいまわし うまい政治家 迷走し
橋架かり 変わる景色に 道迷い
和えものに 春のほろ苦 そっと添え
ほめ返し マスクでかくす 苦笑い
ワクチンが 挨拶がわり 老人会
この国で 次は見られぬ オリンピック
上場株 かと思いきや 変異株
自粛して くりこし増えた 小遣帳
なまけぐせ コロナの仕業と 言い訳し
落ち鮎を ねらってしらさぎ とんぼの目

小林 久子



今年こそ 夢見る第九 唄いたい
ファン倶楽部 盛り上がりでも風邪ひくな
春迎え 巣立ちができる 慶びよ
目覚めれば 今日一日よ 楽しかれ
肌奇麗 いいところ発見 お姉さん
近づくよ 結成一年 ファン倶楽部
ドローンよ 次は二級だ 宜しくね
生きるとは 今が大切 この時間

斎藤 栄三郎

大雪に 出口気持ちも 塞がれて
自粛なら 今後はコロナに してもらお
ウオークを 怠けたツケは ノロ歩き
りかこちゃん 泣いた笑うた この快拳
里帰り ご近所さんの 猛チエツク
梅雨籠り もぐら叩きで 憂さ晴らし
七転び 八起きと言うが 気力萎え
暇ひまで ついムダ買いの テレシヨップ
食べ過ぎも 飲み過ぎもそれ 若いから
観客を かぼちゃと吞んで 立つ舞台
真子さまが 真子さんになり 日本発ち
超ビッグ MVPを 満票で

澤村 玲子

マスクとは 卒寿勞う 天の御褒美
病とは 知恵も氣力も 欠けるとき
永らえて 我慢の果ての 映える老い
いたわられ 聞き流すうちに どっぷりと
よう来たな そないにせくな 逃げはせん
しみかくし コロナ如きに 助けられ
欲しいのは 一気呵成の 氣力体力
能なしと 攻めくるスマホ 耐える我
長生きし 次回のパラを 見てみたい
古き辞書 貫禄だけで 様になり

千田 節子

「まあいいか」それが私の悪い癖
ポンコツの老身撫でたり さすったり
誰にでも「コンニチワ」云う 一年生
脳てんき 悩みが無くて 幸せよ
婆さんで 何が悪いと 意地になる
こころよく 頼み引き受け 忘れてた
だんまりで 食べだんまりで 飲む四人
「言わないよ」と 念を押しては 皆に言う
短さは 足だけでなく 性格も
口いらぬ 文字で会話を する時代
またとない 秋晴と云い 又出掛け
おさえても 声に怒りが こもってる

南部 歳子

コロナには 楽しい人生 狂わされ
えくぼだわ 昔は可愛い 今皺か
支払いし 釣銭受けて 品忘れ
書いておく 延命治療 パスですよ
何故かしら 目薬注すのに ロが開く
足の裏 ご苦勞さんと 湿布貼る
隠しすぎ 大事な品物 何処だっけ
いつの間に 乾し大根 両腕よ
癌よりも なりたくないよ 認知症
じやーまたね 何度言ったか 長電話
この頃は 宝石箱は マスク入れ
心にも 杖がほしい 年となる

新田 ヨシエ

紅を引く 今日をたしかに 生きるべし
髪形を かえて見ようか 春だもの
春遠く コロナ居座り ボケ予感
見栄えよき 写真は別に 片付けて
一つ覚え 一つ忘れて 生き延びる

立葵 高き塀越し 覗き見る

すみません 云ってはいたが 本当かな

野の花が 愛しくって 連れ帰る

知らぬ間に 古株となる 趣味の会

橋本 小夜子

髪染めて たちまち気分は 五十代
ブロッコリー 重さ比べて カゴに入れ

長谷 正子

衣類掛け 並ぶ洋服 春を待つ

おとぼけも 老いの生き行く 知恵なりき

いやな事 仕切り直して また明日へ

我がハート 時きざむ音 比べ見る

老いの身も ピンク色には 目じり下げ

お化粧は だれに見せるの おしえてよ

若き日を 語れば昭和 こぼれ出る

濱田 芳雄

虫歯無し 後で気がつく 総入れ歯
止められぬ もう一杯の 酒うまし
続けよう 意気込みだけで すぐ挫折
夕陽影 老いて縮んだ 背丈伸び
お世辞でも 言われりや嬉し 若いのう
亡くし物 忘れた頃に 現れる
老いて知る 楽しく過ごす 遊行期
物忘れ 良いこともある 厭な事
旅自粛 旅行カバンは 入院用
美術館 理解不可能 絵に迷う
あれやこれ 安い買い物 高くつく
でも期待 当たるはずない 宝くじ

林 進

又一つ 年をとったと からいばり
窓開けりや 白山見えぬ お正月
月一の 川柳思考 ボケ防止
知らぬ間に 嬉し悲しの 誕生日
晩年を サプリ頼みで 生き延びる
夢に見る 心許せる 談話会
グループに 弾む談話の 輪の力
いきいき会 今こそ本音で 友づくり
川柳も ネタを消すなど 神頼み
ふと思う ヤンチャな俺の 半世紀
文化祭 よくぞ仕上げた いきいき会
来年も 頑張れるかと 首かしげ

福井 康人

ゲームする 孫の光る目 手の早さ
数センチ 都会に降る雪 大ニュース
お賽銭 五百円玉の 音を聴く
桜餅 色と香りに 手が伸びる
苦く無い 腰回復の 薬なら
俺だって 老年会では 青二才
寝る時が 一番素直に なれるなあ
旨い酒 気分も最高 雲の上
食うために 一円安い 店は何処
散る花も 感謝ひと言 水をやる
婆さんを 姉さんと呼び 苦笑い
大掃除 小さな過去も 詰めて出す

増永 一夫

チリリンと 裾をひらひら 女子高生
鍵かけた アツ忘れ物と 日々もどる
立てば座り 座れば寝たい 歳のせい
目分量 今では母の 味を超え
忘れじと メモしたはずが 何だっけ
猛暑日は 肌を刺すほど 温度下げ
マスク下 ランチの日には 厚化粧
高嶺の花 ミケもわたしも 食えぬサンマ
候補者は 一夜明ければ 嘘をつく
お年玉 物価に比例と 孫ねだる

松島 成美

八十路でも 雪かきできた 自信もつ
分からない ヘルプの見方も ヘルプ要る
何事も ネットで調べ 博士ぶる
新調の 物使うのに 一苦労
人間に 挑んできたな 変異株
二回目も 副作用なし 一安心
観客が 入って五輪の 意義がある
唄うたび マイクの消毒 守ってる
来た人で 会話がはずむ 会がいい
パソコンで 顔の付け替え 恐ろしい
病み上がり 階段上がり 息上がり
頼もしい 短く病状 話す医師

吉岡 芳夫

自撮りする 自分の顔に 年を知る
ハグしたい 孫の優しさ 身に沁みる
パパ咲いたよ 貴方が植えし 桃ノ木が
山城を 目指せし我に 愛の杖
幸せを 噛み締め浸かる 露天風呂
独り身は キャベツひとつ 持て余す
間違いを 笑み浮かべつつ さとす君
マスク中 女忘れず 紅を引く
老いの道 息子の声に 耳向ける
まだいける リズム取れるよ フラダンス
一杯の 酌で繋がる 友の輪よ
マスク顔 外したくない 顔パンツ

吉田 美恵子

七草か 亡き妻思い 懐かしむ

南南東 太巻き恵方 福よ来い

株高や コロナバブルは 何時弾く

何してる 誘って見るか 気になって

思い出が 追いかけて来て 楽しいの

指摘して 間違いだらけの 私です

あの子とも 話してみたい この娘とも

何ごとも 自分で作る 世界です

オードリー 美人はいいな 何時までも

よきともよ りかいしてくれ ありがとう

慣れて来た スマホ検索 やつとこさ

吉野 廣